

食品安全情報（微生物） No.4 / 2019（2019.02.20）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

目次

[【米国食品医薬品局（US FDA）】](#)

1. サルモネラ (*Salmonella* Agbeni) 感染患者に関連している可能性により回収対象となっている Duncan Hines ブランドのケーキミックスを調査（2019年1月31日、2018年11月7日付更新情報）

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. サルモネラ (*Salmonella* Agbeni) 感染アウトブレイク（最終更新）
2. ロメインレタスの喫食に関連して発生した志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) O157:H7 感染アウトブレイク（最終更新）

[【カナダ公衆衛生局（PHAC）】](#)

1. 公衆衛生通知：ロメインレタスに関連して発生した大腸菌感染アウトブレイク（最終更新）

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF: Rapid Alert System for Food and Feed)

[【欧州食品安全機関（EFSA）】](#)

1. 食品由来寄生虫に関連した公衆衛生リスク

[【アイルランド食品安全局（FSAI）】](#)

1. 抗菌剤の使用および抗菌剤耐性に関して One Health の観点からの報告書

[【オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）】](#)

1. オランダにおける人獣共通感染症の発生状況（2017年）

[【ProMed mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報 2019（3）

【各国政府機関等】

- 米国食品医薬品局 (US FDA: US Food and Drug Administration)

<http://www.fda.gov/>

サルモネラ (*Salmonella Agbeni*) 感染患者に関連している可能性により回収対象となっている Duncan Hines ブランドのケーキミックスを調査 (2019年1月31日、2018年11月7日付更新情報)

FDA Investigated Recalled Duncan Hines Cake Mixes Potentially Linked to *Salmonella Agbeni* Illnesses

Page Last Updated: 01/31/2019

<http://www.fda.gov/Food/RecallsOutbreaksEmergencies/Outbreaks/ucm625148.htm>

2019年1月31日付更新情報

米国食品医薬品局 (US FDA)、米国疾病予防管理センター (US CDC) および複数州の公衆衛生・食品規制当局は、複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella Agbeni*) 感染アウトブレイクを調査した。2019年1月14日、CDCは、本アウトブレイクが終息したと考えられると発表した。2018年11月上旬、FDAは、回収対象のケーキミックスが製造された施設の調査を行ったが、その際に採取した製品検体および環境検体はサルモネラ陰性であった。本アウトブレイクの患者が、Duncan Hines ブランドの汚染されたケーキミックスを喫食したか否かを確認できる十分な疫学・追跡情報は得られなかった。

2018年11月7日付更新情報

FDAは、Duncan Hines ブランドの回収対象ケーキミックスの製造施設を調査している。CDCに報告された患者由来のサルモネラ株と、*S. Agbeni* に汚染されていた「Duncan Hines Classic White Cake Mix」由来のサルモネラ株のWGS (全ゲノムシーケンシング) 解析結果が一致し、FDAおよびCDCはこれをConAgra Brands社に通知した。

同社はFDAと協力し、予防策としてDuncan Hinesブランドのケーキミックスの自主回収を行っている。FDAは、ケーキミックスを製造した同社所有の施設の立ち入り検査を行っている。また、環境検体および製品検体を採取している。

(食品安全情報 (微生物) 本号、No.1 / 2019 (2019.01.09) US CDC 記事参照)

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<http://www.cdc.gov/>

1. サルモネラ (*Salmonella* Agbeni) 感染アウトブレイク (最終更新)

Outbreak of *Salmonella* Infections (*Salmonella* Agbeni Infections)

January 14, 2019

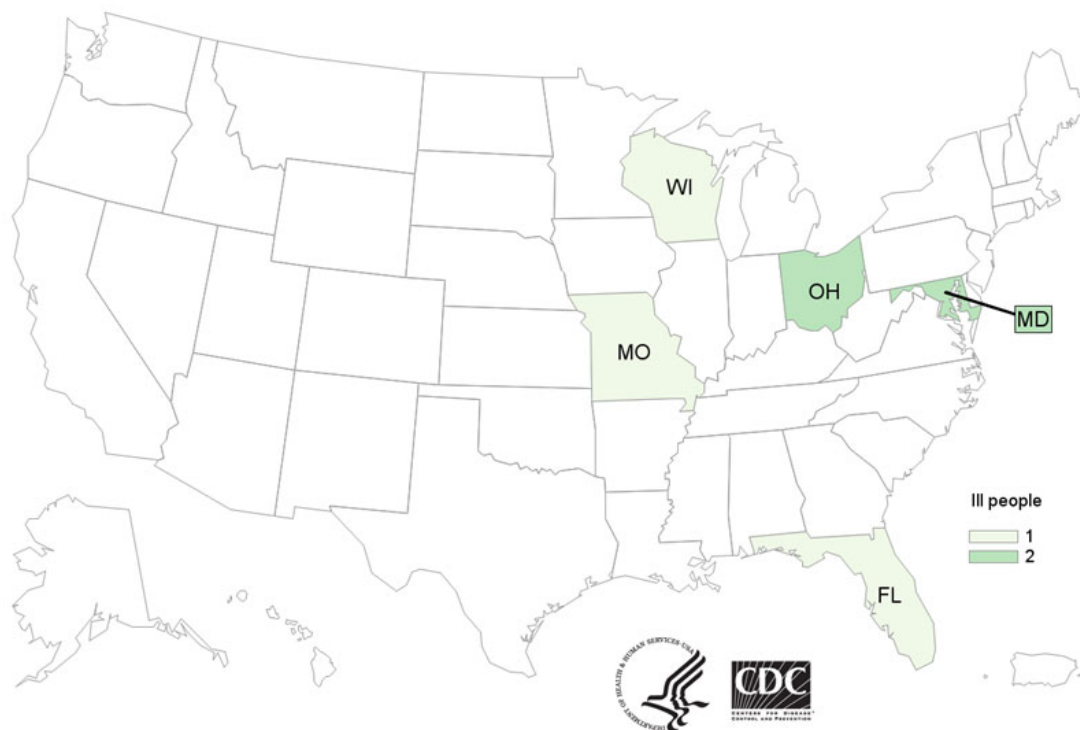
<https://www.cdc.gov/salmonella/agbeni-11-18/index.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Agbeni) 感染アウトブレイクを調査した。

オレゴン州の公衆衛生当局がケーキミックス製品「Duncan Hines Classic White Cake Mix」1箱から *S.* Agbeni を検出したことから、ConAgra Brands 社は、2018年11月5日に「Duncan Hines」ブランドの4種類のケーキミックス製品の回収を開始した。CDCがPulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のデータベースを検索したところ、同じ *S.* Agbeni 株の感染患者7人が5州から報告されていたことがわかった。PulseNetは、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果をCDCが統括する全米ネットワークシステムである。本アウトブレイクの患者から分離されたサルモネラ株にWGS (全ゲノムシーケンシング) 法によるDNAフィンガープリンティングが実施され、これらの株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイクの患者の感染源が共通である可能性が高いことを意味している。

患者の発症日は2018年6月13日～10月5日であった。患者の年齢範囲は26～72歳、年齢中央値は33歳で、71%が女性であった。入院も死亡も報告されなかった (図)。

図：サルモネラ (*Salmonella Agbeni*) アウトブレイク株感染患者数 (2019年1月10日まで)に報告された居住州別患者数、n=7)



患者 3 人に対し、発症前 1 週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査が行われた。患者 2 人が発症前 1 週間にケーキを喫食したことを、1 人が生のケーキミックスを喫食したことを報告したが、ブランド名に関する情報は得られなかった。CDC は複数州の公衆衛生当局および FDA と協力してさらに情報を収集したが、これらの患者が喫食したケーキまたは生のケーキミックスが「Duncan Hines」ブランドであるか否かは確認できなかった。

アウトブレイク株の WGS 解析の結果、患者 5 人および食品 1 検体由来の計 6 株について抗生物質耐性の存在が予測されなかった。しかし、患者由来の 1 株はテトラサイクリン耐性遺伝子を有していた。現在、CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム (NARMS) 検査部門が抗生物質耐性試験を実施中である。

2019 年 1 月 14 日時点で、本アウトブレイクは終息したと考えられる。可能性の高い感染源の特定に必要な十分な情報が得られる前にアウトブレイクが終息することが時々ある。公衆衛生当局は個々のアウトブレイクを徹底的に調査しており、調査および迅速な解明のための新しい方法の開発に継続的に取り組んでいる。

(食品安全情報 (微生物) 本号 US FDA、No.1 / 2019 (2019.01.09) US CDC 記事参照)

2. ロメインレタスの喫食に関連して発生した志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) O157:H7 感染アウトブレイク (最終更新)

Outbreak of *E. coli* Infections Linked to Romaine Lettuce (Final Update)

January 9, 2019

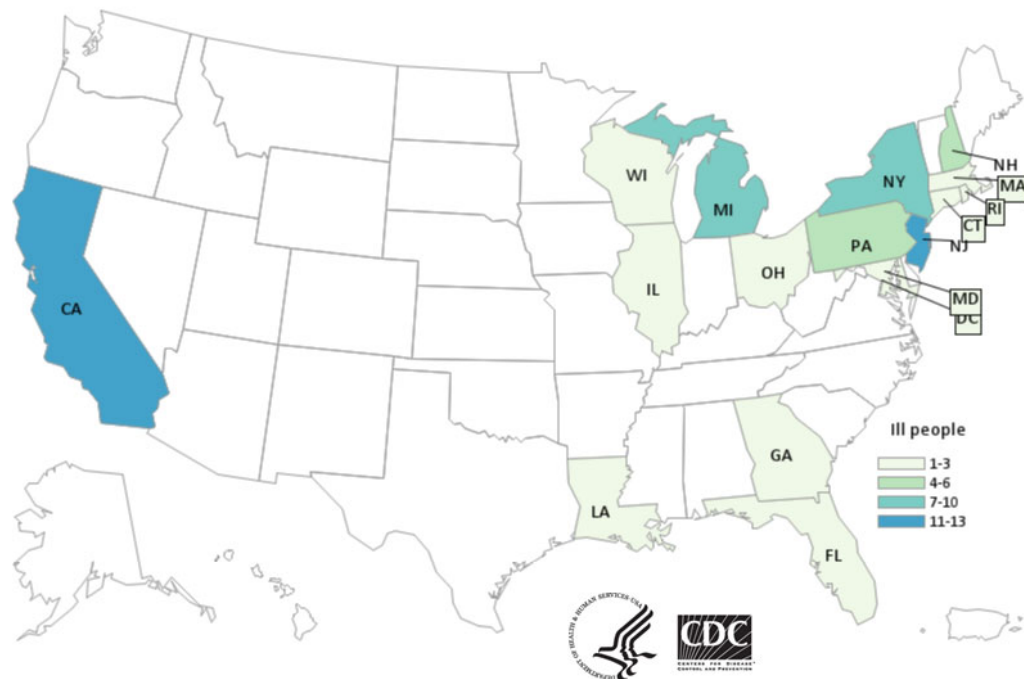
<https://www.cdc.gov/ecoli/2018/o157h7-11-18/index.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局、カナダ当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、カリフォルニア州北部・中部の Central Coastal 栽培地域由来のロメインレタスに関連して複数州にわたり発生した志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) O157:H7 感染アウトブレイクを調査した。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムが利用された。PulseNet は、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。患者から分離された大腸菌株には、PFGE (パルスフィールドゲル電気泳動) 法および WGS (全ゲノムシーケンシング) 法によって DNA フィンガープリンティングが行われる。CDC の PulseNet 部門は、アウトブレイクの可能性を特定するため、このような DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。WGS 法による DNA フィンガープリントは、PFGE 法に比べ、より詳細な情報をもたらす。WGS 解析の結果、本アウトブレイク患者由来の大腸菌株は遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイク患者の感染源が共通である可能性が高いことを意味している。

2019年1月9日までに、大腸菌 O157:H7 アウトブレイク株感染患者が 16州およびワシントン D.C. から計 62 人報告された (図)。

図：大腸菌 O157:H7 アウトブレイク株の感染患者数（2019 年 1 月 9 日までに報告された居住州別患者数、n=62）



患者の発症日は 2018 年 10 月 7 日～12 月 4 日であった。患者の年齢範囲は 1～84 歳、年齢中央値は 25 歳で、66%が女性であった。情報が得られた患者 54 人のうち 25 人(46%)が入院し、このうち 2 人が溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症した。死亡者は報告されなかった。

WGS 解析の結果、患者 53 人から分離された大腸菌 O157 株のうち、51 株については抗生物質耐性の存在が予測されなかった。残りの 2 株はアンピシリン耐性遺伝子を有していた。CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）検査部門において抗生物質耐性試験が現在進行中である。大腸菌 O157 感染患者の治療に抗生物質の使用は推奨されないことから、以上の結果が治療方針に影響を及ぼすことはない。

アウトブレイク調査

疫学・追跡調査および検査機関での検査により得られたエビデンスは、カリフォルニア州北部・中部の Central Coastal 栽培地域由来のロメインレタスが本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示した。

患者に対し、発症前 1 週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査が実施された。調査した患者 36 人のうち 30 人(83%)がロメインレタスの喫食を報告した。この割合は、健康な人に対して過去に行われた調査で回答者の 47%が調査前 1 週間以内にロメインレタスを喫食したと報告した結果と比べ有意に高かった。患者が喫食したと報告したロメインレタスのタイプは様々であり、喫食場所は複数のレストランおよび家庭であった。

患者がロメインレタスを喫食したと報告したレストランに関連して 2 つの患者クラスターが特定された。患者クラスターは、発症前 1 週間以内に同じレストラン店舗での食事、共通の行事への参加、または同じ食料品店舗での買い物をしたことを報告し、かつ同居していない 2 人以上の患者と定義される。上記の 2 つのクラスターでは、患者数人が同じレストラン店舗での食事または同じ食料品店舗での買い物を報告した。患者クラスターの調査によりアウトブレイクの感染源に関して極めて重大な手掛かりが得られることがある。相互に関連のない数人の患者が数日の間に同じレストラン店舗での食事または同じ小売店舗での買い物をしていた場合、当該レストラン店舗または小売店舗で汚染食品が提供・販売されていたことが示唆される。

FDA による追跡調査の結果は、本アウトブレイクの患者がカリフォルニア州北部・中部の Central Coastal 栽培地域の特定の郡で収穫されたロメインレタスを喫食したことを示した。FDA は、CDC および複数州の当局と協力し、追跡調査で特定されたカリフォルニア州の農場および冷却施設を調査した。CDC は、そのうちの 1カ所である Adam Bros. Farming 社の農場（カリフォルニア州 Santa Barbara 郡）について水検体および堆積物検体の分析を行った。その結果、この農場にある農業用水源の堆積物検体から大腸菌 O157:H7 アウトブレイク株が検出された。WGS 解析により、農業用水源から検出された大腸菌 O157:H7 株は患者由来分離株と遺伝学的に近縁であることが示された。

また、WGS 解析の結果、本アウトブレイクの患者から分離された大腸菌 O157:H7 株は、米国では葉物野菜に (<https://www.cdc.gov/ecoli/2017/o157h7-12-17/index.html>)、カナダではロメインレタスに

(<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notice-outbreak-e-coli-infections-linked-romaine-lettuce.html>) 関連しているとされた 2017 年のアウトブレイクの患者から分離された大腸菌株と遺伝学的に近縁であることが示された。今回のアウトブレイクは、2018 年 3~6 月にロメインレタスに関連して米国およびカナダの複数州にわたり発生した大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイク (<https://www.cdc.gov/ecoli/2018/o157h7-04-18/index.html>) とは関係がない。2018 年 3~6 月のアウトブレイクの患者は、DNA フィンガープリントが今回のアウトブレイク株とは異なる大腸菌 O157:H7 株に感染していた。

FDA は、大腸菌の当該株が農業用水源に流入した経緯および当該農場のロメインレタスの汚染経路について、さらなる情報を得るため調査を継続している。FDA は、Adam Bros. Farming 社が 2018 年 11 月 20 日以降ロメインレタスを出荷していないとの確証を得ている。本アウトブレイクに関連した Adam Bros. Farming 社由来のロメインレタスはもはや市場に流通していない。FDA は、追跡調査で特定されたその他の農場について調査を継続している。2019 年 1 月 9 日時点で本アウトブレイクは終息したと考えられる。

(食品安全情報 (微生物) 本号 PHAC、No.1 / 2019 (2019.01.09) 、No.26 / 2018 (2018.12.19) 、No.25 / 2018 (2018.12.05) US CDC、PHAC 記事参照)

● カナダ公衆衛生局 (PHAC: Public Health Agency of Canada)

<http://www.phac-aspc.gc.ca/>

公衆衛生通知：ロメインレタスに関連して発生した大腸菌感染アウトブレイク (最終更新)

Public Health Notice - Outbreak of *E. coli* infections linked to romaine lettuce

January 11, 2019 – Final Update

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notice/2018/outbreak-ecoli-infections-linked-romaine-lettuce.html>

この最終更新は、米国疾病予防管理センター (US CDC) が米国でのアウトブレイクは 2019 年 1 月 9 日時点で終息していると考えられると発表したことを受けてのものである。カナダでのアウトブレイクについては 2018 年 12 月 24 日に終息が宣言されており、すでに調査は終了している。カナダ政府は、州・準州政府および地域の公衆衛生部門と協力し、ロメインレタスに関連する新たな大腸菌感染患者発生を探知できるよう警戒を続けている。今後、新たなリスクが特定された場合、カナダ公衆衛生局 (PHAC) およびその関係機関は、カナダ国民に健康リスクの上昇を通知し、感染予防に関する助言を行うために必要な措置を講じる予定である。

アウトブレイク調査の概要

カナダでは、本アウトブレイクに関連して計 29 人の大腸菌感染確定患者が報告され、州別の内訳はオンタリオ (5 人)、ケベック (20)、ニューブランズウィック (1) およびブリティッシュ・コロンビア (3) であった。ブリティッシュ・コロンビア州の患者 3 人は、ケベック州、オンタリオ州および米国への旅行に関連していた。患者の発症日は 2018 年 10 月中旬～11 月中旬で、10 人が入院し、2 人が溶血性尿毒症症候群 (HUS) を発症した。死亡者は報告されなかった。患者の年齢範囲は 2～93 歳で、患者の 52% が女性であった。

患者の大多数が発症前にロメインレタスを喫食したことを報告した。患者は、家庭以外に、食料品店で購入した調理済みサラダ、また、レストランおよびファストフード店で注文した料理によりロメインレタスを喫食していた。

検査機関での検査結果は、本アウトブレイクの確定患者由来の大腸菌株は、2017 年 12 月からカナダと米国の両国にわたり発生した大腸菌感染アウトブレイクの確定患者由来分離株と遺伝学的に関連していることを示した。これらのアウトブレイクは同じ大腸菌株により発生しており、繰り返し出現する汚染源の存在の可能性が示唆された。本アウトブレイクの調査では、これらの事例における可能性のある汚染源を特定するため、両アウトブ

レイクについて収集されたエビデンスを用いた調査が行われた。

食品安全調査の一環として、ロメインレタス検体が採取され大腸菌検査が行われた。カナダ食品検査庁（CFIA）による検査の結果はすべて大腸菌陰性であった。本アウトブレイク調査の期間中、CFIAは、米国食品医薬品局（US FDA）の調査で特定された米国カリフォルニア州の一部地域由来のロメインレタスについて、輸入・配送・販売・提供・使用を行わないよう関連業界に注意喚起を行った。CFIAはカナダ市場でこれらの措置が講じられたことを確認した。

（食品安全情報（微生物）本号 US CDC、No.1 / 2019（2019.01.09）、No.26 / 2018（2018.12.19）、No.25 / 2018（2018.12.05）US CDC、PHAC 記事参照）

● 欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety）

http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2019年2月2日～15日の主な通知内容

警報通知（Alert Notification）

イタリア産有機セイヨウネギ（leek）スプラウト用種子のサルモネラ（25g 検体陽性）、ベルギー産チーズスプレッド（バジルソース入り）と粉チーズのリステリア（*L. monocytogenes*、25g 検体陽性）、アイスランド産冷蔵スモークサーモンのリステリア（*L. monocytogenes*、125g 検体陽性）、チェコ共和国産冷凍鶏肉製品のサルモネラ（25g 検体陽性）、スペイン産活ムラサキイガイ（イタリアで包装）のサルモネラ（25g 検体陽性）、ポーランド産冷凍ケバブのサルモネラ（group D、10g 検体陽性）、スウェーデン産ビートル

トスプラウトのサルモネラ (25g 検体陽性)、ポーランド産食肉製品のサルモネラ (10g 検体陽性)、オーストリア産オーガニックタルタル肉のリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、ハンガリー産冷凍内臓付き鴨 (オーストリア経由) のサルモネラ (*S. Typhimurium*, 25g 検体陽性) など。

注意喚起情報 (Information for Attention)

アルゼンチン産冷蔵牛肉 (イタリア経由) のリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、ウルグアイ産牛肉のリステリア (*L. monocytogenes*, <25 CFU/g)、中国産加熱済み飼料 (ミールワーム、コオロギ) のサルモネラ (*S. Aberdeen*, 25g 検体 1/5 陽性)、クロアチア産七面鳥ひき肉 (ハンガリー産原材料使用) のサルモネラ (*S. Enteritidis*, 25g 検体陽性)、スペイン産冷蔵ムラサキイガイ (イタリアで浄化) のサルモネラ (25g 検体陽性) など。

フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

ウクライナ産ヒマワリ種子フレーク (オランダ経由) のサルモネラ (*S. Senftenberg*, 25g 検体陽性)、ポーランド産冷蔵豚肉のサルモネラ (*S. Choleraesuis*, 25g 検体 3/5 陽性)、ウルグアイ産冷蔵牛肉 (イタリアで加工) のリステリア、デンマーク産大豆タンパク質濃縮物のサルモネラ (25g 検体陽性)、デンマーク産冷蔵スモークサーモン (スライス) のリステリア (*L. monocytogenes*, <10 CFU/g)、フランス産アンコウのアニサキス、フランス産冷蔵メルルーサのアニサキス、ハンガリー産冷凍鶏もも肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ルクセンブルク産菜種ミールのサルモネラ (*S. Münster*, 25g 検体陽性)、トルコ産飼料用有機ヒマワリ種子圧搾油粕 (英国経由) のサルモネラ (25g 検体陽性)、ハンガリー産冷凍フォアグラのサルモネラ (*S. Kottbus*, 25g 検体陽性)、中国産有機大豆搾油粕 (オランダ経由) のサルモネラ (*S. Typhimurium*, 25g 検体陽性) など。

通関拒否通知 (Border Rejection)

米国産魚粉のサルモネラ (*S. Oranienburg*, 25g 検体陽性)、エチオピア産ゴマ種子のサルモネラ (25g 検体陽性)、チャド産ゴマ種子 (トルコ経由) のサルモネラ (*S. Namur*, 25g 検体 1/5 陽性)、アルゼンチン産落花生のカビ、ブラジル産ブラックペッパーのサルモネラ (*S. Poona*, 25g 検体陽性)、スーダン産白ゴマ種子のサルモネラ (*S. Johannesburg* と *S. Suellendorf*, とともに 25g 検体陽性)、モーリタニア産魚粉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ブラジル産ブラックペッパーのサルモネラ (*S. Javiana*, 25g 検体 4/5 陽性)、ブラジル産ブラックペッパーのサルモネラ (*S. Newport*, 25g 検体陽性)、中国産乾燥ドッグフードの腸内細菌科菌群 (2.6×10^3)、ブラジル産冷凍塩漬鶏むね肉 (半身) のサルモネラ (25g 検体陽性)、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Millesi*, 25g 検体陽性)、チリ産冷凍七面鳥むね肉製品のサルモネラ (25g 検体陽性)、中国産豆腐製品 (唐辛子入り) のセレウス菌 (960,000 CFU/g)、エクアドル産粗ほぐしカツオ (塩水漬け) の昆虫 (成虫、幼虫)、ト

ルコ産イヌ用餌のサルモネラ (25g 検体陽性) と腸内細菌科菌群 (>300・990・2,200 CFU/g) など。

● 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu>

食品由来寄生虫に関連した公衆衛生リスク

Public health risks associated with food-borne parasites

4 December 2018

<https://efsa.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.2903/j.efsa.2018.5495> (報告書 PDF)

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/5495>

寄生虫は公衆衛生上重要な食品由来病原体である。その複雑な生活環、多様な感染経路、および感染から発症までの期間の長さは、公衆衛生上の実被害や様々な感染経路の相対的重要性の評価が困難になる場合が多いことを意味する。また、検出や診断、および報告システムの多様性などの課題も存在する。欧州域内を対象に多基準決定解析モデルを用いたランク付けが 2016 年に行われ、食品由来の可能性があるが、現時点では食品での管理対策が日常的には実施されていない重要な寄生虫が特定された。これらは、クリプトスポリジウム属原虫 (*Cryptosporidium* spp.)、トキソプラズマ原虫 (*Toxoplasma gondii*) およびエキノコックス属条虫 (*Echinococcus* spp.) である。欧州連合 (EU) 加盟国において、これらの寄生虫のヒトや動物への感染および食品からの検出については届け出義務がない。本科学的意見では、これらの寄生虫の食品での検出・特定・追跡に現在用いられている手法の見直し、食品由来感染の経路に関する文献レビュー、食品の汚染や食品中での生残に関する情報の精査、およびフードチェーンの各段階で実施可能な管理対策の検討のそれぞれの結果が報告されている。

上述の 3 種類の寄生虫は相互に違いが極めて大きい、これらの寄生虫はすべて、関連食品に幅広く適用可能な、十分に確立され、標準化および妥当性確認がなされた手法が少ない。また、感染から臨床症状発現までの期間が長い (クリプトスポリジウムの数日間からエキノコックス属の数年間まで) ことは、感染源特定のための調査が非常に難しいことを意味する。にもかかわらず、家畜 (イヌ、畜産動物など) での単包性エキノコックス (*Echinococcus granulosus*) の生活環に関する既存の知見から、当該寄生虫は制御可能であると解釈される。生活環に野生動物 (キツネや齧歯類) が関与する多包性エキノコックス (*Echinococcus multilocularis*) の場合は、管理対策が高額で複雑なものとなる可能性があるが、十分な取り組みとリソースを集中的に投入した地域においては制御が期待できる。

食肉中のトキソプラズマについては定量的リスク評価が示されている。しかし、糞便中の汚染物質としての *T. gondii* およびクリプトスポリジウムについては、定量的リスク評価および効率的な管理対策のために、生残性／感染性分析法や関係者が合意した分子タイピング法などの、妥当性確認済みの検出法の開発が必要である。

● アイルランド食品安全局（FSAI : Food Safety Authority of Ireland）

<http://www.fsai.ie/>

抗菌剤の使用および抗菌剤耐性に関して **One Health** の観点からの報告書

One Health Report on Antimicrobial Use and Antimicrobial Resistance Published

31 January 2019

<https://health.gov.ie/blog/press-release/ministers-for-health-and-agriculture-publish-report-on-antimicrobial-use-and-resistance/>（報告書 PDF）

https://www.fsai.ie/news_centre/antimicrobial_use_and_resistance_31012019.html

2015年、アイルランド食品安全局（FSAI）の科学委員会は、抗菌剤耐性問題に関する報告書において次のように提言した。

- ・フードチェーンおよびヒトにおける抗菌剤の使用に関するデータを採取および解析する際には「One Health」アプローチを導入すべきである。
- ・アイルランドでは、抗菌剤耐性菌の出現率および由来を明らかにするための強化サーベイランスシステムが必要である。

これらを受け、アイルランドで今回初めて「抗菌剤の使用および抗菌剤耐性に関して One Health の観点からの報告書、2016年」が発表された。FSAI は、緊急性が高いこの問題への取り組みにおける重要な一歩としてこれを歓迎している。

本報告書は、アイルランドの保健省（Minister for Health）および農業・食糧・海洋省（Minister for Agriculture, Food and the Marine）によって刊行された。

- オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM: Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu)

<http://www.rivm.nl/>

オランダにおける人獣共通感染症の発生状況 (2017 年)

State of Zoonotic Diseases 2017

2018-12-11

<http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2018-0112.pdf> (報告書 PDF、オランダ語)

<https://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2018-0112.html>

人獣共通感染症とは動物とヒトとの間で伝播し得る感染症のことである。本報告書は、オランダで発生した人獣共通感染症に関する 2017 年の年次報告書である。本報告書には、届け出義務がある人獣共通感染症の発生動向、注目すべき調査および症例研究などが収載されている。また、この報告書は人獣共通感染症に関連する特定のテーマにも焦点を当てており、2017 年のテーマは One Health の理念にもとづく協調についてである。

2017 年は 2016 年までと同様、届け出義務がある人獣共通感染症のほとんどについて特記すべき変化は観察されなかった。人獣共通感染症全体に占める割合が最も高かったのは、2017 年も引き続き食品由来細菌(カンピロバクター、リステリア (*Listeria monocytogenes*)、サルモネラ、志賀毒素産生性大腸菌 (STEC)) であった。レプトスピラ症患者数は、2016 年の減少傾向が継続したものの 2017 年も依然として多く、ハンタウイルス感染患者数は 2017 年にさらに増加した。2016 年に、オランダでは初めてイヌからブルセラ菌 (*Brucella canis*) が検出されたが、2017 年も輸入のイヌ数頭から *B. canis* が検出された。

人獣共通感染性クラミジアとしては、オウム病クラミジア (*Chlamydia psittaci*) の他に数種が存在する。2013 年以降オランダで計 6 人が *C. caviae* による肺炎と診断され、また、2017 年には 1 人が *C. felis* による結膜炎と診断された。抗生物質耐性に関する調査プロジェクト (ESBLAT: ESBL-Attribution-analysis) により、ESBL (基質特異性拡張型 β ラクターマーゼ) 遺伝子の伝播はほとんどが動物-ヒト間ではなくヒト-ヒト間で起こることが明らかになった。ESBL 遺伝子を有する細菌は抗生物質の作用を阻害する酵素を産生できるため、抗生物質耐性となる。耐性遺伝子は他の細菌に伝達されることがあるため、抗生物質耐性が蔓延する。

本報告書の 2017 年のテーマは「人獣共通感染症への統合的アプローチ: One Health の理念にもとづく協調の課題と適用 (Integrated approach of zoonoses: challenges and applications of One Health collaboration)」である。人獣共通感染症の徴候の発信、評価および制御には、One Health の原則にもとづく様々な分野間での協力が強く求められる。One Health の中核となる理念は、ヒト・動物・環境は相互に関連し、影響しあっているという考えである。本報告書では、One Health の原則がどのように発展してきたかについて記載されている。また、最近発生した 2 件の人獣共通感染症アウトブレイク (ラットでの

ソウルウイルス感染、イヌでの *Brucella canis* 感染) は、オランダで One Health にもとづく協力関係がどのように築かれているかを示している。

(関連記事)

オランダにおける人獣共通感染症の発生状況報告書 (2017 年) の最重要ワードは分野間協力

Collaboration is key to 2017 State of Zoonotic Diseases report

12/20/2018

<https://www.rivm.nl/en/news/collaboration-is-key-to-2017-state-of-zoonotic-diseases-report>

● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 2019 (3)

Cholera, diarrhea & dysentery update 2019 (3)

7 February 2019

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
イエメン	2/7	20 県	2018 年 12 月	(死亡者含む疑い) 47,310	86
		全国	2016 年 10 月 ~2018 年 12 月	(死亡者含む疑い) 1,417,156	2,870
			2017/4/27~	(死亡者含む疑い) 1,391,329	2,741
			2017/4/27~	12,937 検体中 4,319 検体陽性	
			2018 年上半期	1,000 未満/月(約 30/日)	
			2018 年 9 月最初 2 週間	約 21,000 (約 1,500/日)	
			2018 年 10 月第 1 週	13,000 以上 (約 1,900/日)	
			2018 年 10 月第 3 週	約 14,500 (約 2,100/日)	
			2018 年 12 月	約 12,000/週	

イエメンのコレラ

10,000 人あたりの罹患率

全国：493.95

最も高い 5 県：Amran (1,258.21)、Al Mahwit (1,087.47)、Sana'a (781.53)、Dahamar (704)、Al Dhale'e (652.50)

死亡者数が最も多い 4 県

Hajjah (472)、Ibb (371)、Al Hudaydah (343)、Taizz (221)

イエメンのコレラ (2017 年 5 月からの累積患者数*)

日付	累積患者数	累積死亡者数
2018/1/7	1,029,717	2,241
2018/1/21	1,046,674	2,248
2018/1/28	1,051,798	2,252
2018/2/18	1,063,786	2,258
2018/3/17	1,080,422	2,266
2018/3/25	1,084,191	2,267
2018/4/14	1,089,507	2,274
2018/5/24	1,100,720	2,291
2018/6/10	1,107,144	未発表
2018/7/1	1,115,378	2,310
2018/9/23	1,207,596	2,518
2018/10/7	1,236,038	2,556
2018/11/11	1,309,915	2,613
2018/12/31	1,417,156	2,870

* 2017 年 12 月以前のデータについては食品安全情報 (微生物) No.3 / 2018 を参照

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室